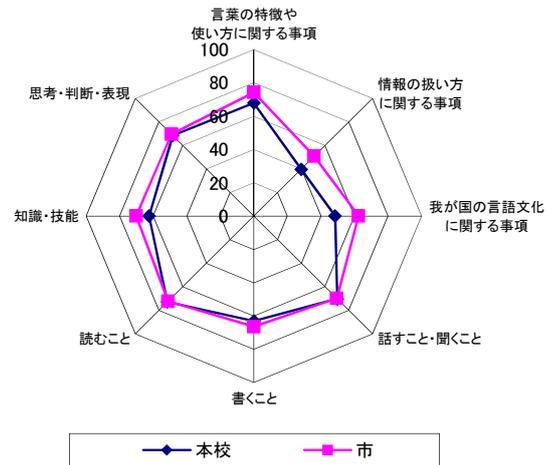


宇都宮市立晃宝小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.9	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	39.8	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	48.4	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	70.3	69.9	69.7
	書くこと	63.0	66.4	64.6
	読むこと	72.9	72.3	71.0
観点別	知識・技能	62.5	70.1	70.0
	思考・判断・表現	68.4	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

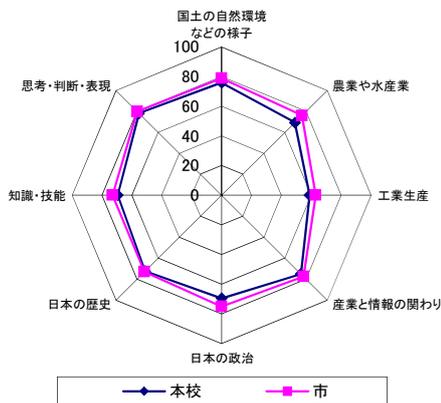
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○第6学年配当漢字を読む問題は、いずれも市の平均正答率より高かった。また、謙譲語についての問題の平均正答率も、市の平均正答率より高かった。</p> <p>●熟語の成り立ちや尊敬語の問題の平均正答率は、市の平均正答率より低く、課題があった。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・新出漢字を読み方や字形に注意しながら、繰り返し練習して漢字を覚えることを、引き続き朝の学習や家庭学習で取り組ませる。また、文章を書く際には、漢字のもつ意味を考えながら漢字を正しく使ったり、学習した漢字を意識して使ったりすることが習慣付けられるよう全ての教科の授業において指導していく。</p> <p>・敬語については、日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるよう、学校行事や来客があった時などと関連させて指導していく。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理したり、目的に応じて、文章を簡単に書いたりする問題の平均正答率は、市の平均正答率より低く、課題があった。</p>	<p>・いくつかの資料の中から必要な情報が書かれている資料を選ぶことができるよう、授業の中で、「要約してまとめる力」や「物事を比較・関連付けて考える力」の育成を目指した学習活動を行っていく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●漢字の由来についての問題の平均正答率は、市の平均正答率より低く、課題があった。</p>	<p>・新出漢字や言葉の学習をする際には、漢字辞典を活用して漢字の成り立ちや部首・つくりの持つ意味にもふれさせる場面を増やしていく。また、部首・つくりの学習では、テーマを決めて漢字を集める活動等を取り入れ、児童が漢字に興味・関心を持って学べるようにする。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>○「話し手の目的に応じて、話の内容を捉えること」の問題の平均正答率は、98.4%であった。</p> <p>●「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合うこと」の問題の平均正答率は市の平均正答率をやや上回っていたが、市と比べ無回答の児童の割合が高かった。</p>	<p>・意見や提案など自分の考えを話したり、必要なことを聞き取ったりする活動や自分の立場を明らかにして考えを伝え合う活動を、各教科の授業において発達段階に応じた言語活動となるよう指導していく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>●記述式の問題において、市と比べ無記入の児童の割合が高く、課題があった。</p>	<p>・指定された段落構成で文章を書くことができるよう、教科書を活用して段落をつくることの意義や目的を確認したり、文章を試写する活動を取り入れたりしながら、段落の「型」を理解させる。基本的な構成に沿ってまとまりのある文章を書く技能を身に付けさせることができるよう、一人一人の子どもにも実態に応じたきめ細やかな支援・指導を引き続き行っていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○物語文の読み取りの問題の平均正答率は、全ての問題において市の平均正答率より高かった。</p> <p>●説明文の内容を読み取る問題の平均正答率は、市の平均正答率より低く、課題があった。</p>	<p>・説明文については、段落や文章のまとまりを意識させたり何が書かれているかを読み取ったりする学習を今後も十分に時間をかけて指導していく。また、どの段落に書かれている内容なのかを明確にして感想等を伝え合うようにさせることで、内容のまとまりを正しく捉える力を育てる。</p>

宇都宮市立晃宝小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	75.9	78.9	75.4
	農業や水産業	69.3	76.1	71.2
	工業生産	58.9	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	75.0	77.6	59.7
	日本の政治	69.5	75.0	79.3
観点別	日本の歴史	72.5	73.1	72.8
	知識・技能	69.5	73.0	71.4
	思考・判断・表現	78.1	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

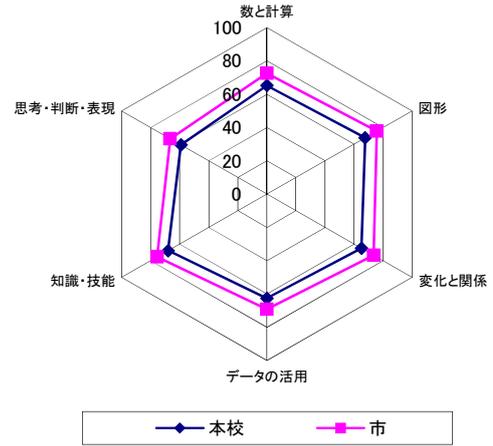
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は、参考値よりもやや高い。</p> <p>○日本周辺の海洋名を問う問題では、正答率89.1%と、市を1.8ポイント上回った。</p> <p>●中国の国旗と位置について理解しているか問う問題では、正答率84.4%と、市を5.8ポイント下回った。</p> <p>●日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取っているか問う問題では、正答率43.8%と、市を5.9ポイント下回った。</p> <p>○津波から命を守るための取り組みについて理解しているか問う問題では、正答率98.4%と、市の平均を0.9ポイント上回った。</p>	<p>・国名や海洋名、周辺の国や日本の領土の学習では、用語を押さえるだけではなく、地図帳や資料集を積極的に活用していく。</p> <p>・日本の主な地形の名称と地図上の位置を結び付けて考える問題に課題があった。知識を身に付ける際に、単に言葉のみを覚えさせるのではなく、言葉が表す意味や場所などを資料集や地図帳を使って確認することで、活用できる知識として身に付けられるようにしていく。</p> <p>・学習内容と日常生活を結び付け、自分事として捉えながら、考えを表現する活動を今後も継続していく。</p>
農業や水産業	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>●都道府県の位置の理解をもとに、米の生産量について表を読み取り、白地図にまとめられるかを問う問題では、正答率50.0%と、市を11.7ポイント下回った。</p> <p>○複数の資料に着目して、魚の流通にかかる費用について捉え、判断しているかを問う問題では、正答率82.8%と、全国を5.5ポイント上回った。</p>	<p>・資料の読み取りをもとに考え、身に付けた知識を地図上に表現する技能に課題が見られた。学んだことを白地図上に表したり、表やグラフを実際に作成したりする活動を通して、知識を表現する技能を身に付けさせていく。</p> <p>・複数の資料を読み取り、思考・判断する問題の正答率が高く、無回答も市より少なかった。今後も、複数の資料を見比べて見えてくるものを考えさせる経験を積ませることで、資料活用を高める技能を高めていく。</p>
工業生産	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>●大工場と中小工場の理解をもとに、資料を読み取っているかを問う問題では、正答率35.9%と、市を26.9ポイント下回った。</p> <p>○日本の鉱産資源の輸入について、資料を読み取っているかを問う問題では、正答率73.4%と、市を8.3ポイント上回った。</p>	<p>・日本の輸出入についての基本的知識を問う問題では、よく定着が図られていた。今後も、単元ごとの重要語句の確認やノートまとめ、ミニテストの継続的な実施などを行い、基礎基本の確実な定着を図っていく。</p> <p>・知識をもとに、資料を読み取る問題に課題がみられた。1つの資料をじっくりと読み、何が見えてくるのか考えさせるだけでなく、見えてきた事実が既習の知識とどう結びつくのかを考えさせることで、資料活用を高める技能を高めていく。</p>
産業と情報の関わり	<p>平均正答率は、参考値よりも高い。</p> <p>○インターネットを利用するときの注意点について理解しているかを問う問題では、正答率89.1%と、市を0.2ポイント上回った。</p> <p>●資料に着目して、コンビニエンスストアのポイントカードを利点を考え、表現しているかを問う問題では、正答率60.9%と、市を5.3ポイント下回った。</p>	<p>・情報社会におけるインターネット利用の注意点についてよく理解できていた。情報化がますます進展していく中で、それぞれのメディアの特徴を捉えながら、それぞれの良さや課題に気付かせるような指導を今後も継続していく。</p> <p>・資料に着目しながら、実生活で活用できる情報について考え、表現する問題に課題がみられた。身に付けた知識についてふり返り、実生活と関連付けながらまとめる機会を持つことで、既習の知識を活かして表現する力をつけていく。</p>
日本の政治	<p>平均正答率は、昨年度よりも高い。</p> <p>●非核三原則について理解しているかを問う問題では、正答率57.8%と、市を22.1ポイント下回った。</p> <p>○裁判の仕組みについて、資料を読み取っているかを問う問題では、正答率85.9%と、全国を6.3ポイント上回った。</p>	<p>・唯一の被爆国として戦争や平和について考えさせることで、基本的な知識を確実に身に付けるとともに、自分自身の考えを持てるようにする。</p> <p>・政治の仕組みについては自分たちの生活から少し距離があると感じているため、実感を伴った理解が難しい。そこで、政治の仕組みが自分たちの生活にどのような影響を与えているのかなど、具体的な事例で考え、理解できるように指導する。また、その際には、写真資料や図表を効果的に活用し、実感的な理解を図れるようにする。</p>
日本の歴史	<p>平均正答率は、市の平均よりもやや低い。</p> <p>●飛鳥時代の出来事を理解しているかを問う問題では、51.6%と、市を7.2ポイント下回った。</p> <p>○室町時代の文化について理解しているかを問う問題では、正答率84.4%と、市を10ポイント上回った。</p> <p>●武家諸法度について理解しているかを問う問題では、正答率48.8%と、市を6ポイント下回った。</p> <p>○江戸時代の主な大名の配置について、資料を読み取っているかを問う問題では、正答率78.1%と、市を2.5ポイント上回った。</p>	<p>・歴史用語を正しく身に付けるため、教科書をもう一度復習したり、練習問題を解いたりすることで、基礎・基本の定着を確実に図る。</p> <p>・それぞれの時代の歴史に特徴を理解し、自分の言葉で表現できるようになるためには歴史を大観する力が必要になる。そのために、それぞれの時代ごとの特徴をまとめるだけでなく、大きな歴史の流れを捉え、それぞれの時代のつながり、共通点や相違点を考察し、現代の私たちの生活とも比較することで、その時代がもつ特色や歴史的な意味を浮かび上げさせ、時代を適切に捉える目を育てていく。</p>

宇都宮市立晃宝小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	65.2	72.6	73.1
	図形	67.7	75.7	74.7
	変化と関係	65.1	73.6	66.1
	データの活用	62.6	69.2	70.7
観点別	知識・技能	68.0	75.5	74.4
	思考・判断・表現	59.1	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

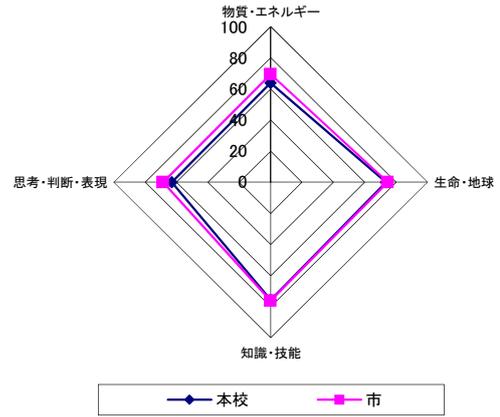
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は市の平均よりも低い。</p> <p>○分数のわり算の計算問題の平均正答率は市の平均より高かった。日頃から基本的な計算問題をウォーミングアップや家庭学習として繰り返し取り組ませてきた成果であると考えられる。</p> <p>●小数の計算で図をみて立式するをする問題は、市の平均を下回り課題があった。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>○正しく計算できるように授業の中で丁寧に取り組みさせ理解させた後、練習問題を繰り返し取り組ませていく。</p> <p>・問題場面を捉える際にテープ図や数直線に正しく表すことができるよう、低学年から発達段階に合わせて指導していくことが必要である。図をもとに、乗法なのか除法なのかしっかり考えさせて立式させ、自分の言葉で説明できるようにしていくことが大切である。</p>
図形	<p>平均正答率は市の平均よりも低い。</p> <p>○図に示された六角形の内角の和の求め方を表す式を選ぶ問題では市の平均を上回った。授業の中でいろいろな考えを取り入れながら、正多角形について学習してきた成果であると考えられる。</p> <p>●線対称な図形について対応する点を見つける問題や三角形の一つの外角を求める問題では、市の平均を下回り課題がみられた。</p>	<p>・図形は実物を用いたり友達と考えを交流したりしながら、イメージ豊かに捉えられるようにしていく。</p> <p>・線対称、点対称な図形では、対称の軸、対称の中心の見つけ方を確認し、対応する辺や角、頂点を見つける問題を繰り返し学習させるようにする。また、身の回りの対称な図形についても意識を向けさせ主体的に学習できるよう働きかける。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は参考値よりやや低い。</p> <p>○割合で「半分が何%であるかを理解している。」という問題では、平均正答率が約86%で、市の平均を上回った。</p> <p>●単位量あたりの大きさ・速さでは「速さの単位の間隔を理解し、分速を秒速や時速になおすことができる。」問題で市の平均正答率を下回り課題が見られた。</p>	<p>・割合や割合のグラフの学習では日常生活の場面などを題材とした問題などに取り組みさせ割合や百分率が日常生活に活用できるよさを捉えさせるようにしていく。</p> <p>・速さなど単位量あたりの大きさの学習では、今後も生活に関わる場面を設定し、児童自らが問題を発見して課題設定し学級全体で学び合いながら考えを深めて課題解決できるよう指導していく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は他の領域よりやや高い。</p> <p>○「円グラフを読み取ることができる」「度数分布表を完成させることができる」という問題では、市の平均正答率を上回った。</p> <p>●割合・割合のグラフで「円グラフから割合を読み取り、基準量から比較量を求めることができる。」という問題では市の平均正答率を下回り、課題が見られた。</p>	<p>・「データの見方」の学習では、必要性を感じながら統計的な問題解決の方法を学んでいけるよう課題の設定を工夫し、主体的に学習できるように今後も工夫していく。</p> <p>・割合の基準量や比較量については、数直線の使い方に慣れさせたり、問題文を自分が理解しやすい表現に読みかえて考えられるように繰り返し指導していく。</p>

宇都宮市立晃宝小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	63.7	69.3	65.7
	生命・地球	73.5	74.7	77.8
観点別	知識・技能	75.7	76.2	76.4
	思考・判断・表現	63.0	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の正答率に比べて低い。</p> <p>○「物のとけ方」や「物の燃え方」の基礎問題では、平均正答率が市の平均を上回るものもあった。教科書に書かれている基本的な学習内容を、授業の中でしっかりと理解させられるように丁寧に指導してきたことが功を奏したと思われる。</p> <p>●「物のとけかた」の活用問題の平均正答率は、市の平均正答率より低く、課題があった。</p>	<p>・新しい単元に入る際には、関連する身の回りの事柄や既習内容を思い出せるようデジタル教科書を活用したり、教科書の確認問題をもう一度解いたりして、既習した単元の基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図っていく。</p> <p>・児童自らの予想や仮説に基づいて、観察、実験の計画や方法を考える学習活動を丁寧にしたり、観察・実験から気付いたことや分かったことを全体で話し合う活動に十分に時間をかけながら学習のまとめを行ったりしながら、問題解決の力を育成できるような授業を展開していく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の正答率をやや下回る結果であった。</p> <p>○「動物のからだのつくりとはたらき」に関する問題についての平均正答率は市の平均正答率より高かった。唾液の働きに関する基礎問題の平均正答率は、9割を超えていた。授業において映像を活用し、分かったことを図や表にして整理して伝え合う学習活動を行ったことが功を奏したと思われる。</p> <p>●「動物のからだのつくりとはたらき」についての活用問題(記述)の平均正答率は、市の平均正答率より低く、課題があった。</p>	<p>・単元のまとめでは、教科書やノートで学習したことを振り返らせながら確認問題を考えさせていく。また、学んだことを活用する問題を解く際には、これまでに学習したことを根拠として説明し合う活動を十分に時間をかけて指導していく。</p> <p>・今後も、実験や観察を行う際には、実演にあわせて、デジタル教科書の動画などで器具の使い方を確認させ、器具を安全に正しく使えるように指導していく。</p>

宇都宮市立晃宝小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の定着を目指した学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の準備物、発表の仕方、話の聞き方など学習態度の指導の徹底 ・朝の学習の時間の確保(漢字・計算) ・発達段階に応じた家庭学習の内容の提示と習慣化のための支援 ・習熟度別学習やT・Tによる指導、かがやきルーム等の個に応じた支援・指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組みについての設問の肯定的回答の割合は、学年によってばらつきがあり、全校で共通理解して指導していく必要がある。 ・国語の漢字を読む問題は平均正答率が高い傾向が見られたが、熟語の問題は平均正答率が低かった。また、算数の計算問題の平均正答率は市の平均正答率より低く、課題があった。引き続き、国語・算数の基礎・基本の確実な定着を目指し、習熟度別学習やT・Tによる指導、かがやきルーム等の個に応じた支援を行うとともに、朝の学習や家庭学習において繰り返し学習を、単元テストの結果などから児童の実態に合わせて計画的に行っていく。
学習指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づいた授業改善を目指した校内研修の実施(研究教科:算数 主体的・対話的で深い学びにつながる学習活動の工夫) 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの学年において「算数が好き」という設問の肯定的回答の割合が市の肯定的割合より高かった。しかし、「進んで学習に取り組んでいる」等の学習に対する気持ちや態度についてのアンケートの結果は、学年によってばらつきがあった。また、6年の学力調査の結果は、4教科の平均正答率が市より低く、課題があった。今後も引き続き、学習指導の工夫について校内研修を行い、全ての学年において学習指導要領に基づいた授業の実現を目指していく。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・基礎・基本の確実な定着を目指して、朝の学習や家庭学習において繰り返し学習(宮っ子ステップアップ、A Iドリルの活用)を計画的に実施する。特に算数については、習熟度別学習・少人数指導やT・Tでの授業を行い、きめ細やかな支援を行っていく。
- ・学習指導要領に基づいた授業を行えるよう、各教科の授業改善を図っていく。(校内研修の充実と一人一授業の実施)